

峰厚介カルテット

峰厚介 (Ts)

1944年東京生まれ。

高校2年の時、ジャズ喫茶でレコードを聴いたのがジャズとの出会いである。1963年にジャズバンドに入り、ジャズクラブ等でアルトプレイヤーとして演奏をはじめ。

1971年にはMal Waldon (ピアニスト) の日本公演及びライブレコーディングに参加、同じく菊地雅章とJoe Hendersonのコンサートにも参加する。この年よりテナーサックスを吹き始める。

現在は1992年に結成した自己のクインテットを中心に演奏活動を行い、この年のスイングジャーナル誌ジャズディスク大賞において日本ジャズ賞を受賞する。

スイングジャーナル誌のポールウィナー・テナーサックス部門では1991年より8年連続 (通算10回) のウィナーに輝いている。

本田竹広 (P)

1945年岩手県宮古市生まれ。12才で音楽家を志して上京。中学2年より国立音楽大学を目指し、長峰和子女史に師事する。国立音楽大学附属高校入学を経て同大学に至るまで、長峰門下でクラシック音楽家を目指す。同時にジャズと出会い、その即興性、自由なリズムとハーモニーに心を揺り動かされ、ジャズの道へと転向。音楽大学3年生でジャズピアニストとしての活動を開始する。

岡田勉 (B)

1948年愛媛県生まれ。高校卒業後に上智大学入学のため上京。軽音楽部でロックバンドのギターを担当。大学2年の時、友人の誘いもあり、以前より興味があったジャズバンドに参加。大学中退と前後してギターからベースに転向。同じ国立に住んでいた大森明、板橋文夫らと知り合い大森明のグループに参加しピットインなどに出演し始める。

主な参加グループとして大森明、大友義雄、日野元彦、日野皓正グループ帰国後、渡辺貞夫グループ、山本剛トリオなどに参加。現在、峰厚介クインテットのほか、山本剛など数々のセッションで活躍中。

渡辺文男 (Ds)

1938年栃木県宇都宮市生まれ。最初はヴォーカルととしてスタートするが、後にドラマーに転向し、渡辺貞夫バンド等に参加。現在は高橋和己 (Ts) 元岡一英 (P) 小杉敏 (B) 等を中心にした自己のクインテットで活動する一方、各セッション等にも参加、都内ライブハウスを中心に活動中。



峰厚介



本田竹広



岡田勉



渡辺文男